

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：労働費 項：職業訓練費 目：技能向上対策費

事業名【新】未来の技能者育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 労働雇用課 職業能力開発係 電話番号：058-272-1111(内3669)

E-mail：c11367@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,900 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	7,900	0	0	0	0	0	0	0	7,900
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

技能者の高齢化や若者のものづくり・技能離れが進む中、ものづくり産業等における人材確保や技能継承が課題となっている。このため、児童生徒段階からものづくりへの関心を高めるとともに、技能向上に取り組む必要がある。

特に、就職率の高い普通高校や専門高校において、就業を前にした生徒の技能向上を図ることは生徒・企業双方にメリットがある。

(2) 事業内容

熟練技能者（ものづくりマイスター等）を県内学校に派遣し、小中学校では、児童・生徒のものづくりへの関心を高める体験授業、主に普通高校、農業高校、特別支援学校等では、生徒の技能向上を目的とした実技指導を実施する。

○小中学校 年間10校で実施（1回2時間標準）

○高校特支 年間15コース実施（1コース5日×3時間＝15時間を標準）

○講師費用 6,000円/時間

○実施体制 業務委託（岐阜県職業能力開発協会を予定）

(3) 県負担・補助率の考え方

地方創生推進交付金を活用する場合は国1/2・県1/2(活用できない場合は県10/10)

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	44	打合せ旅費
需用費	12	コピー代等
役務費	6	電話・郵便代等
委託料	7,838	
合計	7,900	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

(2) 国・他県の状況

- ・国（厚生労働省若年技能者人材育成支援等事業）
- ・愛知県等複数県で、熟練技能者の学校への派遣事業を実施

(3) 後年度の財政負担

(4) 事業主体及びその妥当性

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ものづくりにおける熟練技能者等の派遣による小中学生での体験教室・高校生・特別支援学校生への実技指導を通じて、ものづくり産業等の人材確保や技能継承を行う。短期的には目標期間内で小中学校の技能体験や高校生の技能向上の機会確保を図っていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R9)	
					達成率	
①小中学校体験教室参加者数				700	3500	
②高校生技能検定受検者数				700	3500	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ものづくり産業等への従事者が減少する中で、従事者を増加させるためには、児童・生徒段階でものづくりに興味を持つ取組みが必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 児童生徒がものづくりに興味を持ち、従事するには、児童・生徒段階での継続的な普及啓発・技能向上支援が必要であり、継続実施が求められる。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	